

保育者養成校におけるピアノ初見能力向上のための一考察

大嶋香代子 澤田一枝 田口綾子 西谷麻里子

Abstract

Students in pre-school/kindergarten teacher training programs mainly learn music pieces to improve their technical piano skills. However, their music-reading ability is currently inadequate, and it takes quite long time for them to read scores of any new pieces. Thus, we thought it was necessary for these students who struggle with reading music to strengthen their skills of reading notation, rhythm, and being able to sight-read for the piano. We aim at providing useful sight-reading skills in the pre-school and kindergarten teaching environment. We are considering a method which incorporates a short yet concise and consistent basic training within each piano class setting.

キーワード：初見 Sight-reading, 音符読み Reading notations, リズム読み Reading rhythms

はじめに

保育者養成校である本校での「保育音楽Ⅰ・Ⅱ」の授業は、ピアノの基礎的な演奏技術と表現方法を学ぶことを通して、保育現場に必要とされる音楽性、音楽的实践力を身につけることを授業概要とし展開される。

授業形態は5～10名ほどの学生を一名の指導者が受け持ち、一人15分前後の個人レッスン時間の中で個々の進度に合わせた指導が行われる。試験での課題曲は1年前期ではバイエル60番以上、1年後期ではブルグミュラー以上、2年前期では就職試験を意識したソナチネ以上の曲、2年後期は自由曲となっている。入学時ピアノ未経験だった学生も1年生末にはバイエルを終了し、2年生ではブルグミュラーなどと並行して、就職試験に備えたソナチネなどに取り組むことになる。ピアノが上手になりたいという積極的で真面目な気持ちはどんなレベルの学生からも感じ取ることができ、ピアノを弾く力は確実に伸びている。しかし、2年生秋頃の就職試験間際になって初見についての相談を受けることがある。篠原(1996)が就職試験の実技試験について調査した結果では、幼稚園の78%が初見で弾くことからわかるように、就職試験で初見を行う園は多い¹。しかしながら、初見力は急には身につかず、レッスン曲のように何週間か練習した曲は弾けるようになるのだが、新しい曲になると譜読みに時間がかかる。以上のことから、新しい曲の楽譜を短時間で読み、弾いていくことは就職試験や保育現場で必要、かつ重要なことであると推測される。

今回の研究では、個人レッスン授業の中で毎回2分ほどの時間を読譜・初見視奏トレーニングのために使い、初見能力向上のために何ができるかを考えた。1年次では「音符読み」「リズム読み」、2年次では「初見視奏」の3つの分野の指導を行うこととする。
(大嶋香代子)

Ⅰ. 音符読みトレーニング

楽譜は、基本的に音の高低とそれに付随するリズムによって作られている。音符位置の認識は、読譜の基礎である。音符に慣れ音符をらくに読むことが出来ると、読譜の際のストレス軽減につながるばかりか、より積極的に楽譜に向き合う意欲が湧くのではないだろうか。音符位置の名称は、感情などに左右されない確たる取り決めである。いわば訓練によって誰もが習得できる力なのである。短時間で読譜しなければならない初見視奏において音符読みトレーニングは欠かせないと考え、訓練を実施する。

「研究方法」

学生に初見能力向上のために、読譜を早めることを目的とした音符読みトレーニングを行うことを伝える。学生は新しい曲の読譜に時間がかかり苦労していることから、その必要性を理解し積極的なスタンスである。ピアノ個人レッスン授業(一人約15分)の中で2分程度を使い、トレーニングを全10回実施する。瞬時に楽譜を読まなければならない初見視奏には、その一環として音符認識の定着が必要である。これは何度も繰り返して読譜す

¹ 篠原万喜子(1996年) 本学における保育者養成のためのピアノ教育について—就職試験の課題をとおして— 横浜女子短期大学研究紀要11号 pp.81-82

ることによって叶えられる。そのため、トレーニングの中では常に前週の復習を欠かさず行うほか学生自身による復習、さらに予習も促し、読譜の機会をできるだけ増やすことを心がける。教材は全員同一で指導者が作成し、各回で使用したプリントは、その都度学生に配布する。学生各々のレベルの違いには読譜量の調整や、すぐに打鍵を課す等の工夫で対応する。

「学生のピアノレベル」

A：初級者 バイエル程度 5名 B：中級者 ソナチネ程度 3名
C：上級者 ソナタ以上 2名 (以下、A B C と記す)

「音符読みトレーニングの実践経過」 実施○ 実施なし× (下記譜例参照)

回	音域	読み	打鍵	時間計測	譜例
1	ト音記号(間)	○	ABC ○	×	1
2	ト音記号(線)	○	ABC ○	×	2
3	ヘ音記号(間)	○	AB× C○	×	3
4	ヘ音記号(線)	○	AB× C○	×	4
5	ヘ音記号(間)	○	A× BC○	×	5
6	ヘ音記号(線)	○	A× BC○	×	6
7	ヘ音記号(間・線)	○	ABC ○	×	7
8	大譜表(単音)	○	ABC ○	○	8
9	大譜表(和音)	×	ABC ○	○	9
10	大譜表(和音)	×	ABC ○	○	10

【1・2回目 ト音記号 順不同の「間」・「線」の音】

6段の五線紙にト音記号「間」の音3段、「線」の音3段を順不同に書き入れたプリント(「間」3段+「線」3段)を作り、学生に配布して音符読みトレーニングを開始した。親しみのあるト音記号から始める意図は、どの学生にも「分かる」という肯定感を持たせることが目的である。Cには速く読むことを課したが、Aには決して急がせず正確さを第一に認識をはかった。Bの読むスピードには、ばらつきが見られ個々に応じた対応となった。

譜例 1



譜例 2



【3・4回目 ヘ音記号 順に並ぶ「間」・「線」の音】

ヘ音記号の教材は、ト音記号のように順不同ではなく「間」・「線」の音を各々、順に並べた。多くの学生はヘ音記号に対する苦手意識を口にした。Aはもちろんであるが、BCであってもヘ音記号になると読みに手間取る学生が多かった。低音から上行、その逆の下行の読みを繰り返した。Cには前回同様に読みと打鍵を課した。

譜例 3



譜例 4



【5・6回目 ヘ音記号 順不同の「間」・「線」の音】

6段の五線紙にヘ音記号「間」の音3段, 「線」の音3段を順不同に書き入れたプリント(「間」3段+「線」3段)を作成し, 読みを実施した。学生は皆, ヘ音記号に黙々と取り組むようになってきた。BCには読みと打鍵を並行して行う。Aは読みだけである。ヘ音記号は時間をかけて何度も取り組む。

譜例5



音符読みトレーニングを終えて、学生各々の成長の跡が見られた。当初はヘ音記号が課題となると初級者だけではなく、学生の多くが苦手意識を口に「すらすら読めるようにはなり得ない」と思い込んでいる様子がありありと見て取れたが、回を進めるうちに、学生はじっくり集中して音符を読むようになった。この変化は「読むことが出来る」との実感を学生が持ち「自ら読みたい」という積極的な行為と考えられる。いつしか「音符がわかりません」との発言を聞かなくなり、それどころか「初めてピアノが楽しいと思った」「ピアノが面白い」と話すようになった。そして読譜の間違いが、以前よりもかなり少なくなっていることに気が付いた。読譜トレーニングによって学生は音符を読むことに手応えを感じ、読譜を重ねるうちに、自らと楽譜の距離を縮めたのではないだろうか。音の秩序を知り、音符読みについて考えるスタンスを有することは、初見能力の向上において不可欠であり、原動力となり得る。今後ますます楽譜に真摯に取り組み、瞬時の読譜を実現し初見視奏に役立てることが示唆される。

(澤田一枝)

II. リズム読みトレーニング

保育者養成校における学生のリズムの「つまずき」は、千葉敬愛短期大学の鎌田(2017)が述べるように²⁾、以下のようなのがあると考え、リズム読みトレーニングを行う。

多くの保育科学生のように幼少期を過ぎてピアノレッスンを始めた初級者は、テンポ感が不安定であることが多い。曲を弾き出すとテンポが微妙に変わる傾向にあり、拍をメトロノームのように刻み続けることが苦手である。そして曲を練習する最初の段階でのリズムの読み方に間違いが多い。例えば2分音符が少し短くなったり、付点4分音符がのびしきれずに次に入ってしまったたり、長くのびした後の8分音符の連続が突然2倍ほどの速さになるなど、正しいお手本を示すと耳からこんな感じというのをすぐ覚えてくれるが、自分で正確にリズムを読んでいく力が不足している。音符の長さを答えることはできるが、経過する時間の中で拍を刻みリズムを打っていくことは、長い期間ピアノを習っていた学生と初級者とは基礎的な力に大きく差がついていることが分かる。また、リズムを読む難しさの中に、音価は分かっている、刻々と変わるリズムの組み合わせに戸惑ってしまうことがある。

「研究方法」

テンポ感の安定や音価の感じ方の統一には、メトロノームを使い進めることにする。


また、様々なリズムに対応するために、種々のリズムパターンのカードを使用していく。毎週カードを使って覚えるリズムパターンを決め、その素材の入ったリズムの課題を持ち帰り定着を図る。翌週はそのチェックと新しいリズムパターンの説明、実践トレーニングを繰り返す。覚えるリズムパターンのカードを選ぶにあたり、童謡の楽譜に使われそうなリズムも取り入れる。リズムカードは全部で4/4拍子1小節分のもの40枚、6/8拍子1小節分のもの10枚を作成した。毎回8枚のカードを選び、そのうちの2枚(2小節分)を横に並べ、組み合わせを変えながら、間違いを直し集中して覚える。最初は4分音符を1拍とする4/4拍子を中心に、次に8分音符を1拍とする6/8拍子に進む。二人一組または一人でピアノのふたを閉め、その上で打つ方法で行っていく。全員同一の教材で行う。

「学生のピアノレベル」

A：初級者 バイエル程度6名(ピアノ未経験者1名、過去1～2年間ピアノ経験者3名、吹奏楽経験者2名)

B：中級者 ソナチネ程度3名 C：上級者 ソナタ以上1名


【リズム読み：4/4拍子など4分音符を1拍とするもの 1回目】

① メトロノームを60に合わせ、4分音符を左手で打ち、右手でリズムを打つ。左手でいつも正確に拍を打つことができるように意識する。


右のようなリズムカードを8枚使い、予備拍4拍を左手で打った後、両手で途切れることなくリズムを打てるようにする。



2 鎌田千佳(2017年)保育士養成校におけるピアノ基礎学習指導の考察 マルチタスクな活動を通して 千葉敬愛短期大学紀要 39号 pp.383-385

②  付点4分音符の後の8分音符の入るタイミングを確認する。

「イチニイサン」の4番目の「イ」のところで右手を打つ。

③  付点2分音符は3拍のばし、次の4分音符の入りが早まらないこと。

付点のついた音符の長さは、音符の長さにその1/2をさらに加えた長さになることを説明する。

【リズム読み 2回目】

① 16分音符を学ぶ。4/4拍子1小節分の1/16の音価である。16に分けた長さである。

左手1拍の中に4個入る。1拍を4分割する感覚を覚える。

(譜例 11)

譜例11 リズムとソルフェージュ
② p.16



② アウフタクトを覚える。強拍はあくまでも1拍目であることに注意する。

左手で1, 2拍を打ってから入る。

(譜例 12)

譜例12 リズムとソルフェージュ
② p.11



【リズム読み 3回目】

① 付点のリズムを覚える。  「コップコップ」はすぐ覚えた。

コップコップタン

次の譜例は、8分音符に付点(ドット)と、16分音符の短い横線(-)を書き加えることで付点のリズムになることを学生に示した。2つの違いを打ってみる。



② この頃になると左手のカウントにもだいたい慣れてきたが、下記のリズム3小節目では、2分音符の後の8分音符が突然16分音符の速さになり、基本のテンポが分からなくなる学生ABが数名いる。

(譜例 13)

譜例13 リズムとソルフェージュ
② p.11



【リズム読み 4回目】

新しいリズムとして、①  ②  ③ 

ラーメン

カツドン

いちごタン



「ラーメン カツドン」はインパクトが強かったのかすぐに覚えた。

次のリズムも打てた。

(譜例 14)

譜例14 リズムとソルフェージュ
③ p.31



 と  のリズムを同じように打つ学生ABがいる。

3連符が「いちごー」とならないように気を付ける。

【リズム読み 5～6回目】

譜例15 リズムとソルフエージュ
③ p.27

① 新しいリズムはシンコペーションである。飛行機「ひこーき」で覚えた。 (譜例 15)



譜例16 リズムとソルフエージュ
④ p.17

② 次のような16分休符、8分休符の入った16分音符を打てるようにする。 (譜例 16)



譜例17 リズムとソルフエージュ
④ p.18

③ タイの入った両手でのリズム譜を打ってみる。 (譜例 17)



タイだと気が付かない学生Aがいたが、両手のリズムの違いで戸惑うことはなかった。

【リズム読み：6/8拍子・片手奏 7～11回目】

「8分の6拍子」の説明をする。8分音符を1拍と数えて、1小節の中に6拍入り、3拍ずつのグループになり、2拍子系である。3/4拍子との違いは、例え話として、「3/4拍子はテントに大人が3人入り、6/8拍子は子供が6人入り、3人ずつ手をつなぐ」のように説明するが、理解できない学生Aもいて、いかに分かりやすく説明するかは難しい。6/8拍子の基本的な8分音符、4分音符を並べたカードを使いリズム打ちをする。左手は予備拍6拍を打ってから右手が入ることを指示する。

譜例18 リズムとソルフエージュ
② p.23

① 基本的なリズムをメトロノーム80で打っていく。全員できる。 (譜例 18)



譜例19 リズムとソルフエージュ
② p.58

② 実際の曲になったものを先にリズム打ち、次に鍵盤で弾いてみる。 (譜例 19)



鍵盤で弾くことは、Aの学生は音符が読めずに弾き直しが多い。

譜例20 リズムとソルフエージュ
③ p.11

③ タイが入ったもの。16分音符が入ったもの。 (譜例 20)



譜例21 リズムとソルフエージュ
③ p.16

④ 付点8分音符のリズムが入り、スラーが読めること。 (譜例 21)



付点8分音符はできない学生ABが多いが、お手本を一度聞くとできるようになる。「言葉では何と覚えたら

いいですか」の質問に、童謡ぞうさんの「ぞうさん」と答えた。

⑤ 片手で弾く課題。あいている方の手は膝をたたき、カウントを取る。

(譜例 22)

譜例22 リズムとソルフェージュ
② p.41



へ音記号の楽譜にリズムは打てても弾けない学生 AB が数名いる。b を落としたり、ト音記号で読んでしまう学生もいる。特に遅れ気味の A 2 名は自宅で練習してやっと 2 週目で出来上がりであった。まだ 6/8 拍子の理解が不十分の学生もいる。6/8 拍子の曲はバイエル、ブルグミュラーにもたくさん出てくる。曖昧なままではいけないだろう。

以上のようなトレーニングにより以下のことが考察される。

当初から学生のインテンポ感覚の不足を感じていたわけだが、メトロノームに合わせたリズム打ちはかなり有効であった。メトロノームをはずすと調子よくいくが、大体は速くなっている。よくメトロノームの音を聴き、左手は崩さないように 4/4 拍子ならば基本の 4 分音符を正確に打つように指示すると、全く崩れることなくリズムを打つことができるようになる。拍を正確に打っていくメトロノームの音に耳を集中させ、その感覚を身体で認識させる。また、リズムパターンを覚えるには言葉をつけて覚えると効果的であることも分かった。リズムにつけた言葉は指導者の個人的言葉探しから出たものが多いが、参考までに書いてみた。

リズムを正確に読めるようにするという同じ目標では指導者それぞれ様々な方法があり、今回はその一例をあげたに過ぎないが、学生のリズムを読む力は当初予想していたより低かったが、このトレーニングの実施により徐々に改善されて、学生のリズムへの理解が深まったと考える。このリズムトレーニングは指導者が横に付いていなければならないことでもある。間違っても笑いがあり、楽しい雰囲気の中で進めることができたのは良かった。毎週の課題プリントは上級者は練習なしでその場でできるものではあったが、特に遅れがちな学生にはじっくり考える時間を与え、毎回の目標を定着させるためには必要だった。やる、やらないの個人差は見られたが、全員が一定の力をつけることができたのは課題があったからだと考える。音符読み、リズム読みトレーニングを続けた 1 年次を終え、新しい曲の譜読み段階で以前より時間はかからなくなり、一定の効果はあったと考えられる。(大嶋香代子)

III. 初見視奏トレーニング

初見視奏とは初めて目にする楽譜を瞬時に読み取り、それらを表現媒体としての指先に伝えて実際にピアノ等の楽器で視奏することである。楽譜には調子、拍子、音符の高低、リズムが存在し、さらにダイナミクス、アーティキュレーションなど様々な要素が書かれている。初見視奏をするときに重要なことは、楽譜の先々へ視線を送りながら鍵盤を見ずに奏することである。

「研究方法」

2 年生になった学生は、1 年次で学んだ音符とリズムの基礎力を駆使して初見視奏の実践に入る。1 年次と同様に一人 15 分程度のピアノ個人レッスン授業の中で約 2 分間を初見視奏に充てる。学生は 1 年間のピアノ個人レッスンを受けて、力の差はあるがブルグミュラー程度以上を弾けるレベルに成長している。

将来保育士として従事することを踏まえ、童謡を多く取り入れる。そして学生が常に達成感を得るように、決して技術的に難しすぎない曲を選び、曲数をこなしていく中で自力を付けていくことを目指す。なお初見視奏の実践には 30 秒程度の黙読時間を与えることを常とする。

「学生のピアノレベル」

A：ブルグミュラー程度9名 B：ソナチネ程度6名 C：ソナタ以上3名

※譜例上に対象学生を ABC と記す。

1. テンポ通り弾くことを習得するために

① 楽譜は左側から、譜表・調号・拍子を順に確認し音を読む。

② 「常にカウントを取る」

拍の数え方の1つの方法として、右足はペダルを踏む可能性があるので左足親指先を僅かに押すようにしてカウントを取ることを提示、実践する。できるだけゆっくりの基本のテンポを決めて刻み続ける。予備拍1小節分のカウントの後に開始する。

③ 「途中で弾き直しをしない」

間違うと何度も弾き直しをしてしまうことが多いので、ペンでガイドし目が先へ先へと行くように導く。

次に「テンポ通りに弾くことを習得するために」のトレーニングで実際に使用した曲を数曲紹介する。

譜例23 新版みんなのオルガン・
ピアノの本2 → p.20, 21

1-1 「むすんでひらいて」譜例 23 ABC

左手の重音伴奏が特徴の曲。ほぼ全員が、音の高さを間違えずに弾くことができた。音符読みトレーニングの成果が出ていると考えられる。

譜例24 こどものうたで楽しい
レッスンうたえる！ひける！
ピアノ曲集(1) → p. 26, 27

1-2 「きらきら星」譜例 24 ABC

AB共に、右手は弾けるが、左手が読みきれずに弾き直しが目立った。このように右手の跳躍も弾きながら、左手へ音譜表を先へ先へと読み弾くことは難しいことが分かる。へ音譜表の読譜の強化がさらに必要である。Cは弾ける。

1-3 「天国と地獄(カンカンダンス)」譜例 25 ABC

AB 共に、視奏前のカウントが不十分であったため 1 小節目の 2 分音符を音価通りにのばせず短くなった学生がいた。リズム読みトレーニングでも扱ったが、2 分音符の後の 8 分音符には注意が必要である。9 小節目からは左手に 4 分音符の拍を刻む音が入り順調に進む。A のうち数名は 7 小節目の右手オクターブ跳躍(ドからド)を 6 度跳躍(ドからラ)と読み違えた。1 オクターブの跳躍を目で見た感覚で覚えることも大切である。C は弾ける。

譜例25 新版みんなのオルガン・ピアノの本3→p.7

1-4 「練習曲」譜例 26 ABC

左手伴奏にト長調の基本の伴奏ソシレ・ソドミ・#ファドレがある。左手のみ視奏前に弾き方を指導。全員弾ける。

譜例26 新版みんなのオルガン・ピアノの本3→p.11

1-5 「いちばん星」譜例 27 ABC

右手のハ長調のスケールは、指番号が習得されていないため弾きづらく、A は途中で弾き直しがあつた。左手はアルペルティ・バスの伴奏形に気付いた学生は弾けるのだが、AB は気付かず弾き直した。黙読時の概要把握が必要なことが分かる。C は弾ける。

譜例27 みんなのオルガン・ピアノの本2→p.36

1-6 「人魚のうた」譜例 28 ABC



この曲を知らない学生は多かった。視奏前に拍子(6/8)とタイ(スラーではなく)を確認した。リズム読みトレーニングで行ったタイのリズムはよくできていたが、8小節目の5拍のばす音が4拍になってしまう学生がいたため、リズム読みでの6/8拍子の数え方を思い出すことを指導した。Aは左手の音に読み間違いが見られたが、右手だけはおよそ拍通りに最後まで進めた。

2. 付点・16分音符などのリズムを意識して

「1. テンポ通り弾くことを習得するために」で学んだ次の内容を視奏前に確認する。楽譜は左側から、譜表・調号・拍子を順に確認し音を読み、常にカウントを取り、流れを止めずに拍通りに先に行くことを目標に視奏を行う。

2-1 「ぞうさん」譜例 29 ABC



付点4分音符と8分音符の組み合わせが多く見られる曲である。リズム読みトレーニングでよく取り上げたリズムであり、付点のリズムは正しくできていた。ABは、3段目からの左手読譜に時々間違いが見られ、テンポの不安定さにつながった。難しい3段目ではあったが、CだけではなくBの中にも最後まできれいに弾き通せる学生はいた。

2-2 「雪」譜例 30 ABC

付点8分音符と16分音符のリズムが特徴の曲である。これもリズム読みトレーニングの成果が現れて、付点リズム自体は容易に弾いた。左手は主にへ音を単音で拍通りに刻み続ける。その左手の正確さを保ちながら、右手で付点のリズムを弾く課題である。学生は右手の付点リズムは、ほぼ正確に視奏できたが、9小節目からの8分音符のリズムを取り違えてしまうことがあった。拍を刻む左手は、途中で4分音符から2分音符に音価が変わるが間違えずに対応していた。1箇所のみでくるロ音に調号を付けることは確認していたにも関わらず付け忘れてしまった。

譜例30 こどものうた100→p. 130

2-3 「雪のこぼろず」譜例 31 ABC

この曲もロ音につく調号を見落とさないで弾くことが求められる。1, 2小節目の16分音符のリズムと3小節目以降の4分音符の長さを正確に弾くことに注意させる。ABC共に、16分音符を含むリズム部分は良くできたが、4分音符を音価通りにのばせなかった。5小節目からの左手部分の調号は付けることができていた。

譜例31 こどものうた100→p. 137

3. 強弱記号・スラー・スタッカート・休符を意識して

強弱記号、アーティキュレーション、休符に目を向けさせる。楽譜から簡単な形式を読み取り、強弱を伴った表現を目指す。

3-1 「かっこう」譜例 32 ABC

強弱記号を読むことによって曲の形式を理解できる例である。学生は強弱記号によって「ABA」の形式に気付いた。全員が弾ける。

譜例32 新版みんなのオルガン・ピアノの本2→p.26, 27

譜例33 4期のピアノ名曲集1→
p.48

3-2 「わかれ」譜例 33 BC

わかれ
Mozart: Sonate Klavier für Maria Theresia (Schwanenbühlchen KV.334 L.45)

Moderato

5小節が1フレーズであり「AABA'」の形式であることを伝えた後、30秒間の黙読と視奏をさせる。学生は視奏しながら「知っている曲」と思わず言葉に出していた。スラー・スタッカートは自然に読んでいたが中間部山場(3段目のフォルテ部分)が弾きづらいうで何度か弾き直しをした。難易度が高めのこのような曲においてもより自力での強弱・形式把握が課題である。

譜例34 新版みんなのオルガン・
ピアノの本2→p.36, 37

3-3 「かえるのうた」譜例 34 ABC

休符をはっきりと表現することを意識した課題である。5小節目からは4分休符が短くならず等に等速で弾くことを目指したが、ABはカウントが曖昧になり予想以上にリズムを崩した。休符は音楽において音符と同等の価値を持つことを指導した。

譜例35 ピアノ演奏グレード A
コース 7級初見練習問題
→ p.26

3-4 「休符」の課題 譜例 35 ABC

Andante

上記3と同じく休符を意識した課題である。9小節目の休符は、Cの中にも休符を見落とし、右手と左手を同時に弾いてしまう学生がいる。ここから左右掛け合いになるため弾き通すことがやや難しい。視線を先へ先へと送ること、へ音譜表の音読みのさらなる定着が課題である。

4. 現場を意識した歌唱とともに

～聴講学生と指導者の歌唱とともに伴奏を弾く～

4-1 「ハッピー・バースデー」譜例 36 ABC

よく知っている曲であるが1オクターブ跳躍があるため止まってしまう学生が多かったので、1オクターブの広がりを実践した。また口音に調号を付け忘れることがあった。調号の徹底を指導した。

譜例36 こどものうたで楽しい
レッスンうたえる！ひける！
ピアノ曲集(1)→p. 82, 83

4-2 「アイアイ」譜例 37 BC

前奏部分を指導者が歌いながらこの小節を指導後、30秒間の黙読をさせる。

馴染みの曲ということもあり、1回でほぼ止まらずに弾き通すことができた。学生の視奏と同時に聴講者(学生)と指導者が歌唱し、歌のプレスの位置で視奏時もプレスをするとフレーズ感を出せることを教える。初見は弾くことに一生懸命になってしまうが、歌った時と同じプレスを初見時から意識させることは大切と考える。

譜例37 こどものうた 100→p. 206

り強く取り組んでいった。系統立てた選曲や童謡の導入も功を奏した。曲の開始前からカウントを取ること(感じること)、視奏時は視線を常に楽譜の先々へ送ること等、指導の蓄積や周知の曲を取り入れたことで、安定したテンポ感や弾き直しをせずに最後まで到達することが少しずつ現実のものとなっていった。さらに訓練を重ねると、次第に楽譜全体を見渡すことが習慣化されていったのである。この見方は曲の概要把握につながり、初見視奏において根幹を為すべく重要な在り方である。こうして楽譜の読み方や一定程度の初見視奏能力は身についてきたが、いまだ充分とは言えないだろう。曲想を表現すること等については今後の課題としたい。

初見視奏の能力は、幼児の情動を培う音楽を短時間で用意できる力である。今後、保育現場で働くことになる学生の味方となり、情操教育のきっかけともなり得る価値ある能力といえよう。(澤田一枝)

参考文献

- 市瀬陽子 大塚直哉 榊原律子執筆(2009年) 4期のピアノ名曲集1 学研パブリッシング
- 呉 暁著(1994年)リズムとソルフェージュ② 音楽之友社
- 呉 暁著(1996年)リズムとソルフェージュ③ 音楽之友社
- 呉 暁著(2003年)リズムとソルフェージュ④ 音楽之友社
- 小林美実監修 井戸和秀編(1982年)こどものうた100 チャイルド本社
- 高橋正夫著(2015年)新版みんなのオルガン・ピアノの本2 ヤマハミュージックメディア
- 高橋正夫著(2015年)新版みんなのオルガン・ピアノの本3 ヤマハミュージックメディア
- 種子田順子 梶本幸 植田智佳(2013年)保育者養成課程における音楽教材の研究(2)甲子園短期大学紀要第31号 pp.101-106
- 橋本晃一著(2001年)こどものうたで楽しいレッスンうたえる!ひける!ピアノ曲集(1)ドレミ楽譜出版社
- 野口美乃里・中島加奈(2015年)ピアノ学習に必要な諸能力に関する研究I—譜読み力に着目して—西九州大学短期大学部 pp.33-45
- ヤマハ音楽振興会編著(2003年)ピアノ演奏グレード Aコース7級初見練習問題 ヤマハ音楽振興会
- ヤマハ音楽振興会編著(2008年)みんなのオルガン・ピアノの本2 ヤマハミュージックメディア
- ヤマハ音楽振興会編著(2008年)みんなのオルガン・ピアノの本3 ヤマハミュージックメディア